

## 島の唄／島の Songs

楠田莉子

### Island Folk Songs / Island Popular Songs

KUSUDA Riko

唄者／シンガーソングライター  
*Shimauta Singer / Singer Song Writer*

#### 要旨

楠田莉子は唄者とシンガーソングライターという二つの顔を持つユニークな存在である。子供の頃に島唄を始めた動機や、曲作りを始めたときの状況などについて聞きながら、二つの活動をどのように両立させているのか、今後の自らの活動についてどのような将来像を思い描いているのかということ語ってもらった。

#### 報告

**楠田** それでは、みなさん、うがみんしょうら。こんにちは。楠田莉子と申します。笠利町の土浜からやって来ました。最初に島唄を一曲、私のとても大好きな唄なんですけども、「糸繰り節」を歌いたいと思います。



「糸繰り節」を歌う楠田莉子さん

心配（しわ）じゃ 心配（しわ）じゃ  
 糸くり心配（しわ）じゃネー トウイネー  
 糸ぬ切りィリィば スラヤヌヤー 結びりゆり  
 トコヤヌ スラヤヌ バイトコドウドウイ

糸や 切りいりいば  
 結びもなりゆりヨー トウイネ  
 縁ぬ切りィリィば スラヤヌヤー 結ばらぬ  
 トコヤヌ スラヤヌ バイトコドウドウイ

（拍手）

**楠田** ありがとうございます。ありがたさまりょうた。



楠田莉子さん（左）と梁川（右）

**梁川** どうもありがとうございました。みなさんはたぶんこのままずっと莉子さんの歌を聴いていたいと思いますが、これから少しの時間、私がインタビューさせていただきます。どうもありがとうございました。はじめまして、ですね、ほとんど。

**楠田** はい。

**梁川** 先ほど短い打ち合わせをしたんですけども、それだけで、ほぼ初対面です。ぼくは莉子さんの歌は、毎年、奄美民謡大賞に行っているの、ずいぶん前から聞かせていただいているんですけど。

**楠田** ありがとうございます。

**梁川** いつも感心して聞かせてもらっています。先ほどの打ち合わせで、最初の島唄にどの

曲を選ぶかという話をしたんですけど、「嘉徳なべ加那節」と「糸繰り節」のどちらかを歌いたいという話になりまして、「嘉徳なべ加那節」は民謡大賞を含めて何度か聞いたことがあるけれども、「糸繰り節」は聞いたことがないので、そちらをお願いしますということになったんです。

楠田 はい。

梁川 というわけで、ぼくは莉子さんの「糸繰り節」をはじめて聞いたんですけど、やっぱり、なんか独特ですよ。あまりほかの唄者で聞いたことがないような歌い方をされるという感じがします。

楠田 ああ、そうですか。

梁川 あまり自覚はないですか。

楠田 あんまり（笑）、分からないんですけど、はい。

梁川 島唄ですから、いろいろな考えを持つ人がいると思いますが、ぼくは島唄のひとつの形として、すごくいいなあとも思っています。

楠田 ありがとうございます。

梁川 それで、島唄を始めたのはいつぐらいからですか

楠田 そうですね、私は笠利町のカサン唄を、森山ユリ子さんからずっと習っているのですが、教室に通い始めたのは6歳の頃だったんです。そのときは空港の近くにある節田保育園に通っていたんですけど、集落のおじいさんやおばあさんが自分の太鼓（チヂン）とか三味線とかを保育園に持ってきて、「行きゅんにやかな」とか「ワイド節」という島の人みんなが歌えるような有名な島唄を、園児に教えてくれる時間というのが保育園の中でありまして、それで本当に小さい頃から、物心ついたときから、島唄を歌う環境というのはありました。それで、楽しいなと思ひまして、歌うことはもともとすごく好きだったので、きっかけは安易だったんですけど、歌う機会が増えればいいなと思って、6歳のときにはじめて教室に通って、島唄を学ぶようになりました。

梁川 それは、要するに自分の意志で、行きたいと思ったんですか？

楠田 はい、自分で島唄をもっと習ってみたいっていうのと、私の祖母が孫の中で一人だけでもいいから、島唄を覚えて欲しいなという願望がずっと昔からあったみたいで、私が末っ子なので（笑）はい。それで、すごくそのおばあちゃんの気持ちと私の習いたいっていう気持ちがちょうどよくタイミングが合ったので。そうですね、自分の意志でもあり、まわりのすすめもあり、ということですね、はい。

梁川 おばあさんは唄者というか、唄をやられる方なのですか？

楠田 ものすごく唄が好きで、私と一緒に島唄の大会に出たりとかもしていました。あと私の祖父も三味線を弾くのがすごく上手で、チヂンを叩くのもすごく上手で、集落の行事で「六調」するときとかは、私の祖父がこうチヂンを叩いて、三味線を弾いて、それに合わせて祖母が歌うというようなのをずっと見て育ちました。

梁川 唄者の方の中には、おじいさんやおばあさんが唄が好きだったという方がよくいらっしゃいますよね。

楠田 （笑）そうですね。

梁川 その一方で、お父さんやお母さんが好きだったという方は、あんまりいないような気がします。

楠田 はい。世代的に、私の両親の年齢の方というのは、今の私ぐらいの年齢というか、十

代のときに「早く島を出たい」とか「方言をしゃべるのがちょっと恥ずかしい」と思っていた世代の人たちなので、私の両親も私が教室に通って歌っているのを見て、そこから島唄を覚えたという感じです。

**梁川** まわりの若い人たち、たとえば同級生とかで唄を一緒にやっていた仲間とかはいましたか？

**楠田** 私と同じ保育園に3歳から習っているという子がいました。小学校のときのクラスにも同じ教室に通う生徒がたくさんいました。けれども、やはり中学校、高校で部活とかが始まると、ちょっとずつ減っていきました。とくに男の子がすごく少ないなと思いました。やっぱり大会のときとかも、出場されている方はほとんどが女の子で、男の子の唄者さんというのは、すごく少ないなと思っています。

**梁川** 本当にいまは男の子が少ないですよね。それで、森山ユリ子さんの教室に通われていたということですが、それは公民館講座の方ですか？

**楠田** はい、公民館講座で、月に二回でした。

**梁川** なるほど。ところで、莉子さんには唄者のほかにもうひとつの顔があります。それはシンガーソングライターとしての顔なのですかけれども、曲を作りをはじめたのはいつ頃からですか？

**楠田** はじめて作ったのは高校生のときです。最初に作った歌はピアノの伴奏の曲でした。そのあとで「ギターを弾くのも楽しいな」と思って、高校2年生くらいからギターを真剣に練習しはじめました。ギターをはじめたのをきっかけに、「たくさん曲を書いてみたいな」と曲作りに対する興味がどんどん湧いてきました。

**梁川** ということは、最初に島唄があって、そのあとで高校のときに作曲をはじめたということなんですか？

**楠田** そうですね。先ほど島唄を習ったきっかけとして、「歌うのが大好きだったから」と言いましたけれども、もともとテレビで流れているような曲を歌うのが大好きで、それこそ元ちとせさんなどは、本当に私が小さいときから憧れている存在なんです。ですから、テレビのコマーシャルで流れている歌だったり、歌番組を見てマネしてみたりというところからはじまって、もともと人前で歌うことが大好きだったので、そこから歌う場が増えればと思って島唄を習いはじめたということなんですね。そのうちに、島唄とポップス、というかテレビで流れているような曲というのはちょっと違うなと思ってきて、それからは区別をつけるというか、はっきり分けて考えているわけではないんですけど、島唄を歌うときは島唄、テレビで流れているような曲を歌うときは、ギターを弾いているときというふうに、島唄を習う時間が増えるにつれて、少しずつ分けて考えるようになったんです。大丈夫ですかね？ちゃんと答えになっていますか？

**梁川** はい、大丈夫ですよ(笑)。ということは、この時間は島唄でこの時間はポップスというふうに分けるということなのではないでしょうか？ それとも一日ごとに、今日は島唄の日とかポップスの日とかいうふうに分けるということでしょうか？

**楠田** そうですね。昔はそれこそ、島唄の教室に行くときに島唄の練習をするというふうだったんですけど、ギターを弾くようになってからは、家にいるときはギターを練習することの方が多くなってきました。島唄は人前で歌うような機会をいただくときに、そのタイミングに合わせて練習をしてという感じになっています。はい。

**梁川** わかりました。たぶん会場のみなさんはもうご存知だと思うんですけど、莉子さんは

今年自分で書いた曲を歌った2枚組のCDをリリースしました。今年の3月でしたかね？ この『half and half』が出たのは。

楠田 はい。

梁川 ぼくも鹿児島島の十字屋に予約しまして。一ヶ月くらいずっとそればかり聴いていたんですけれども。

楠田 ありがとうございます。

梁川 それで最初に聴いた印象としては、何というか、これからまだどう変わっていくか分からない声というんですか、この先もいろいろな可能性があるような声という感じがするんですけれども。

楠田 ありがとうございます。

梁川 それと、全体にとっても島唄っぽいですよね。歌詞とかが。そういうのは意識的にとか、自覚されたりしていますか？

楠田 そうですね、私は島唄の中では歌詞がいちばん好きで、それは生活の中で、ふつうに暮らす中でとくに大切なことを、昔の人たちが歌詞という形に残して、今の人たちも歌っているんですけど、その歌詞がとても好きで、そういう歌詞をいろいろと見て、その中にある人情だったりを参考にして曲を書いたりもしているの、そういうところが、じわじわと出ている面もあるのかなと思います。

梁川 先ほど歌われた「糸繰り節」も大好きな唄とおっしゃっていましたが、あの唄もやっぱり御縁の大切さみたいなことを歌っていますよね。

楠田 そうですね。私の先生の森山ユリ子さんも、上手に歌いたいということよりも、ちゃんと一節一節、こういう歌詞なんだということを理解したうえで歌うようにと、ずっと教えてくださっているの。私のまわりの方たちも、ひとつひとつの出会い大切にしているような人がたくさんいらっしゃるの、そういう方たちを見て、それをお手本にしようと思っているの、そのことを忘れないように歌詞に書いて残しています。

梁川 あと、ひとつお聞きしたいのは、新しい島唄についてです。

楠田 はい。

梁川 島唄というみなさん伝統的な唄ばかりを歌うんですが、ぼくは素朴な疑問として、新しい唄もどんどん出てきていいように思うんです。なぜみなさん自分で新しい曲を作らないのかなと思うんですけど。とくに莉子さんなんかは何か書けそうな気がするんですが。

楠田 はあ、そうですね。自分で曲を作るときというのは、なんとなく自分の好きなようにとか、自由にできるイメージがあるんですけれども、やっぱり島唄というのは、本当に一代や二代や三代では語りつくせないほど長い時間を経てきたものなので、その長い歴史を考えると、これは私の本当に個人的な気持ちですけども、島唄を作るにはまだまだ勉強不足だなんて思ってしまう。はい。

梁川 畏れ多いって感じですかね。

楠田 はい、ちょっと怖いっていうか、ビクビクしちゃいますね。

梁川 ぜひ、時が熟したら。

楠田 そうですね。でも、島唄を自分で作って、それを歌うことができたなら、すごくカッコいいなと思います。築地俊造さんとか坪山豊さんのように、自分で作った唄をみなさんに披露することができたなら、それこそやっぱり、ちゃんと唄者として活躍できたっていう証になるのかなと思います。

梁川 これまで唄者でシンガーソングライターと両立させている人というのはいなかったように思います。莉子さんのような感じで両方やっている人というのはいないとは思いますが、島唄とポップスを両方とも歌うという方は結構いらしゃいますけど、自分で曲を作って歌っている人というのはいなかったんじゃないかと思えます。そういう点で、莉子さんはすごくユニークで独自の存在だと思っているんです。これからどういうふうにその両方の活動を両立させていこうかと思っていますか？ いまどんな将来像を自分で思い描いていますか？

楠田 将来像ですか？ 一番の目標としては、島唄をする前からずっとポップスの方でギターを弾いて歌いたいっていう気持ちがあるので、将来はシンガーソングライターという形で、ライブ活動とか音楽活動がたくさんできればいいなと思っているんですけども、だからといって大人になったら島唄をまったく歌わないというわけではなくて、すごく言い方が難しいんですけど、いま一番の目標としてあるのは、シンガーソングライターで、でも島唄もずっと歌っていきないう気持ちでいます。

梁川 わかりました。とにかく、素晴らしい才能の持ち主だと思うので、これから大いに活躍していただきたいなと思っています。

楠田 ありがとうございます。

梁川 今度は三味線をギターに持ち替えて、もう一曲歌っていただけるということですが。

楠田 はい。わかりました。それでは、もう一曲だけ最後に歌いたいと思います。はじめて自分で作った曲です。「all in all」という歌で、「かけがえのないもの」、「大切なもの」というような意味になります。私の知り合いの方から、「もう少ししたら、赤ちゃんが生まれてきます」という報告を受けて、そのときの嬉しい、幸せな気持ちを歌にしました。最後にこの「all in all」という歌を歌って、終わりたいと思います。

「初めまして、よろしくね」 うまく言葉にできるかな？

会いたいよ 心から 私は今それだけで

頼らないけどよろしくね どんなことが待ってるかな？

会いたいよ 心から 私は今それだけで

優しい光を浴びて 産まれてきてほしい

歌い合って心を繋いでいきたい 踊ったりもしてみたい

笑い合って涙も分け合いたい

ただそれだけで 幸せになれるはず

あなたが笑顔になると みんなきっと泣いちゃうんだ

大好きだよ 心から いつもずっと それだけで

愛される人だから 誰かを愛してほしい

歌い合って心を繋いだとき 本当の幸せを知る

笑い合って涙も分け合えたら

## Island Folk Songs / Island Popular Songs

あなたの鼓動を 近くで感じられるはず

二人の願いも抱いて 素直でいてほしい

一人だけでも できる事はあるけれど  
ひとりぼっちじゃ 愛し合えないから

笑った顔 怒った顔 泣いた顔 困った顔 疲れた顔  
全てにはそう 歌があるから 歌には全部 愛があるから

歌い合って心を繋いだとき 本当の幸せを知る  
笑い合って涙も分け合いたら  
あなたの鼓動 近くで感じられるはず

今感じるのは 深くて綺麗な喜び

**楠田** ありがとうございます。

(拍手)



「all in all」を歌う楠田莉子さん